

昭和10年頃の 松原の様子とは？

銅像園として整備された松原の地は
県内随一の「歴史・文化・祈りの中心地」として発展しました。



正公銅像の建立からはじまった銅像園の整備は、昭和8年(1933)の佐嘉神社の創建により完成します。

昭和10年代の様子を撮影した写真が残されています。



銅像園の様子 昭和10年代
鍋島報効会(徴古館)所蔵

写真の中央右寄りに佐嘉神社があり、左側には徴古館と弘道館記念碑が現在と同じ場所に建っています。徴古館の左奥には佐賀図書館、右には直正公銅像があります。写真手前に広がる北堀には蓮が群生し、ボートもたくさん繋がられています。昭和7年(1932)から貫通道路も整備され、人や車の往来も増えました。



「佐賀丸の内」と呼ばれた官公庁群に加え、銅像園が整備されたことで歴史(直正公銅像・弘道館記念碑)を核として、文化(図書館・徴古館)、祈りや安らぎ(松原神社・佐嘉神社)の中心地となりました。